

露地イチジク収穫が西尾市でピーク 1日10,000パック・約3.8トンを収穫・出荷

8月下旬から9月上旬にかけて、JA西三河管内の西尾市では露地イチジクの出荷が最盛期を迎えます。

西尾市の露地イチジクは7月下旬より収穫を開始しており、最盛期には西尾市内で1日当たり約10,000パック（1パック380^g）を収穫。約半数が小牧センター、残り半数が安城市にあるJAあいち経済連パッキングセンターで等階級別に選果され、主に関東・中京・北陸方面の市場へ出荷されます。

今年は6月から7月の空梅雨の影響から生育が1週間程度遅れ、収穫ピークも同程度遅れて8月下旬ごろとなりました。ピーク時の収量は平年並みを見込んでいます。

西尾市では48人の生産者が8.3^{ha}（露地・ハウス計）で年間に約157^tのイチジクを生産しており、日本一の生産量を誇る西三河地区のいちじく生産を支えています。JA西三河ではイチジク専門の新規就農者向け講座「いちじくスクール」を開き、栽培技術の座学・実技研修や農地のあっせんなどを通してイチジク生産基盤の維持拡大に取り組んでいます。



いちじくスクールでの収穫実習（8月）



小牧センターでの選果風景



パッキングセンターへ出荷される
コンテナづめのイチジク

■いちじく収穫 取材対応日■

【日時】9月8日（金） 午前7時15分集合

【集合】JA西三河 小牧センター

（西尾市吉良町小牧梶見堂3）

※集合後、収穫を行っているいちじく生産者の圃場へご案内します。

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の岡田（連絡先下記）までご連絡ください。

※天候不順の場合には収穫を行わない場合があります。その場合には、事前に取材のご連絡を頂いていた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。

※イチジク出荷作業：

午前11時30分より 小牧センターにて

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

JA西三河 企画課 担当：岡田

（電話：0563-56-5214

メール：kikaku@ja-nishimikawa.com

携帯電話：070-1414-4251）

JA西三河 小牧センター 担当：兵藤

（電話：0563-35-0246）

西尾市のイチジク生産の概要

～新規就農者ぞくぞく参入～

■西三河地区は日本一のイチジク産地！

全国で約12,000トﾝが生産されているイチジク。愛知県は生産量2,479トﾝを誇る日本一のイチジク産地です。中でも西尾市などの西三河地区は、生産の中心地となっています。

昭和40年代より、水田の転作作物としてイチジク栽培が本格化。西尾市のイチジク生産者で組織する「JA西三河いちじく部会」は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河のイチジク生産部会とともに組織する「西三河いちじく部会」の一員として、全国一のブランドを確立。あわせて約800トﾝ（平成28年）のイチジクを生産しています。



JA西三河では、名産のイチジクを利用してゼリーやジャムを製造している
西尾市内の産直店舗で販売中

■産地を支える「いちじくスクール」

イチジクは果樹としては珍しく、苗木の植付から2年で収穫でき、3年目には成木並みの収量を得られます。また脚立に上った作業が不要であること、果実が軽量で作業負担が軽いことなどから、新規就農者にも取り組みやすい作物です。

この性質を活かして新規就農者を取り込み、産地の維持拡大につなげようと、平成27年4月、JA西三河とJAあいち経済連は協力して、イチジク専門の新規就農者向け栽培講座「いちじくスクール」を開校しました。受講生は1年をかけてイチジク栽培の知識と技術を学びます。イチジク専門の新規就農者向け講座は珍しく、西尾市外からも受講生が集まっています。

現在は第3期生が受講中。これまでに38人が受講し、1期・2期生30人のうち8人が西尾市内外にてイチジクで就農しています。生産者数の維持に加え、若く意欲的な生産者の取り込みを通じて規模と生産量を伸ばしています。



いちじくスクールでのイチジク苗木の植え付け（平成27年4月）
誘引作業実習（平成28年6月）

【産地情報】

生産者部会の名称：JA西三河いちじく部会
部会員数：48人
栽培面積：約8.3㏊（うち成園6.9㏊）
生産量：157トﾝ（ハウス44トﾝ・露地113トﾝ）
出荷時期：（ハウス）3月下旬～8月上旬
（露地）7月下旬～11月上旬
販売額：1億2000万円（露地・ハウス合計）
出荷先：主に中京市場・京浜市場
出荷品種：「柵井ドーフィン」
流通：「西三河いちじく部会」を通し、4JA共販で京浜地域（60%）・中京地域（25%）・北陸地域（15%）へ出荷

全国の出荷量：12,411トﾝ
愛知県の出荷量2,479トﾝ（全国1位）
（2位和歌山県：2,207トﾝ、3位兵庫県1,413トﾝ）
西三河いちじく部会の生産量：約800トﾝ（平成28年度）

データ参照：
農林水産省 平成26年産特産果樹生産動態等調査
（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001173724>）
愛知県西三河農林水産事務所による作成資料

2017年8月「いちじくスクール 初収穫」 地域新聞に掲載された記事

愛三時報

2017年(平成29年)8月23日(水曜日)

JA西三河の「いちじくスクール」 収穫本格的スタート

実習圃場定植から3年目で出荷へ

JA西三河(名倉正裕代表理事組合長)が実施している「いちじくスクール」の収穫実習が本格的にスタートした。

同スクールは、JA西三河と愛知県農業改良普及課西尾市、JAあいち経済連

などが協力して開いているイチジク専門の新規就農者向け栽培講座。平成27年の開校時に実習圃場へ苗木の植え付けを行っており、植え付け3年目となる今夏、イチジクの苗木が成木へ成長。スクール圃場での初めての本格的な収穫を迎えている。



18日は受講生7人が、吉良町にある26アの実習圃場に集合。講師の説明を受けながら、赤く熟したイチジクの実を収穫した。

収穫後は、JA西三河小牧センターに移動し、イチジクの選果とパック詰め作業の実習も行った。この日は8コンテナ分の36パックを収穫し、JAを通して出荷した。

子どもが生まれたことをきっかけに新規就農を決定し、本年度から講座に参加している市内の野澤広さん(38)は、イチジクでの就農を選んだ理由について「スクールがあり、サポートを受けられることが大きい」と話し、「収穫実習のときにはどの実を収穫して良いか判断に自信がなく、不安だったが、講師や仲間とともに楽しく収穫できた。」

【写真】いちじくスクール受講生のみなさん

8月23日付 愛三時報(西尾市の地域新聞)より

平成27年4月に開校した「いちじくスクール」では、同日の実習として、実習用圃場へイチジクの苗木を植え付けました。植え付けから2年が経った今年夏、実習用圃場のイチジクが成木となり、初めての本格的な収穫期を迎えています。収穫実習は8月16日より開始しており、受講生は朝早く(午前6:00スタート)から収穫と選果・パック詰めの実習を行っています。

収穫実習は11月上旬まで毎日行っています。こちらの取材を希望される場合には、個別にJA西三河 企画室 岡田まで希望の日時をご連絡ください。

【連絡先】

JA西三河 企画課 担当：岡田
電話：0563-56-5214
メール：kikaku@ja-nishimikawa.com
携帯電話：070-1414-4251)